エドヴァルド・グリーグ

《抒情小曲集(Lyric Pieces)》

- **作曲期間**: 1867 年から 1901 年にかけて作曲。
- **構成**: 全 10 巻、66 曲
- **特徴**: それぞれの曲は短く、親しみやすいスタイルで書かれており、ロマンティックな情感と自然の美しさ、ノルウェー民謡風の旋律が特徴的。

グリーグは、ノルウェーの自然や民俗音楽に深く影響を受けており、その要素がこれらの小曲に散りばめられています。多くの曲は簡潔で親しみやすく、詩的な雰囲気を持ち、ピアノ技法の多様性を示しています。

抒情小曲集 第 1 巻 Op.12 (1867 年)

1. **アリエッタ(Arietta)**: シンプルで優美な旋律。後に第 10 巻の最後で再現され、作品全体を締めくくる。
2. **ワルツ(Waltz)**: 優雅で軽やかなワルツ。
3. **夜警の歌** シェイクスピアの『マクベス』から霊感を受けて作曲された。中間部は「夜の精たち」と題され、和音はラッパの音をあらわす。
4. **妖精の踊り(Fairy Dance)**: 速いテンポで、軽快かつ飛び跳ねるような旋律が特徴の曲。軽快で幻想的な舞踏曲。
5. **民謡**
6. **ノルウェー舞曲(Norwegian Melody)**: 民俗舞踊の影響が感じられるリズミカルな曲。
7. **アルバムの綴り**(アルバムリーフ)
8. **祖国の歌** 短いながらも、堂々とした曲。友人のビョルンスティエルネ・ビョルンソンが詩を付けて男声合唱にも編曲されている

抒情小曲集 第 2 巻 Op.38 (1883 年)

1. **牧歌**(Berceuse): 静かで穏やかな子守唄風の作品。
2. **民謡ホ短調**。4 分の 3 拍子。アレグロ・コン・モートの付点音符が特徴的な軽快な舞曲風。
3. **メロディ**(Melody): 美しい旋律が印象的なロマンティックな曲。
4. **ハリング(ノルウェー舞曲)**
5. **春に寄す**(To Spring): 力強く希望に満ちた曲で、春の訪れを祝うような明るい作品。
6. **エレジー**
7. **ワルツ**　ホ短調。ポコ・アレグロ。
8. **カノン**　起伏の大きな、左右の手の対旋律による進行。シューマンの影響がうかがえる。

抒情小曲集　第 3 巻　Op.43 (1886 年)

1. **蝶々**(Butterfly): 軽やかで流れるような旋律が、飛び回る蝶を描写。
2. **孤独な旅人**(Solitary Traveller): 静かで内省的な雰囲気が漂う曲。
3. **故郷にて**
4. **小さな鳥**(Little Bird): 繊細で軽快なリズムが特徴的。鳥のさえずりを　　表現したような旋律。アレグロ・レッジェーロ(軽やかに)。
5. **愛の歌**　非常に甘美な旋律をたっぷりと歌いながら演奏する。

6 **春に寄す**　4 分の 6 拍子。右手の和音の連打のもとに、左手の旋律が浮かび上がる。このリズム感は、シベリウスの交響曲第 2 番の冒頭と共通する点がある。

抒情小曲集　第 4 巻　Op.47 (1886 年)

1888 年に出版。作品は 1885 年に遡るものもある。「アルバムの綴り」、　　「ハリング」、「飛びはね踊り」など、他の曲集と重複する名前の曲がある。

1. **即興的ワルツ**
2. **アルバムの綴り**

3. メロディ　美しい旋律が感情豊かに奏でられる、情感豊かな作品。
4. ハリング
5. メランコリー
6. 飛びはね踊り
7. 悲歌（エレジー）

抒情小曲集 第5巻 Op.54(1888年)

1. 第1曲「羊飼いの少年」(Shepherd's Boy)
    - この曲は、ゆったりとしたテンポと牧歌的な雰囲気が特徴です。旋律はシンプルながらも、民族的なリズムや和声が使われており、グリーグ特有の自然とのつながりが感じられます。穏やかでありながら、深い感情を秘めた作品です。
2. 第2曲「ノルウェーの行進曲」(Norwegian March)
    - この曲は、ノルウェーの行進曲の形式を取っており、力強くリズミカルです。ノルウェーの民俗音楽の要素が色濃く反映されており、舞踊的なリズムと活気あふれるメロディーが特徴です。中間部ではややメランコリックな旋律が登場し、曲全体に抒情的な要素も加わります。
3. 第3曲「小人」(March of the Trolls)
    - この曲は、伝説上のノルウェーのトロールをテーマにしており、非常にユーモラスで生き生きとしたリズムが特徴です。グリーグの他の作品にも見られるように、北欧の伝説や自然の描写がこの曲にも反映されており、独特の民俗的なリズム感が楽しめます。
4. 第4曲「夜想曲」(Notturno)
    - この曲は、静かな夜の雰囲気を描いた美しい夜想曲です。ゆったりとしたテンポで、メロディーが穏やかに展開され、非常にリリカルな作品です。抒情的で内省的な感情が込められており、グリーグの作品の中でも特に美しいとされています。
5. 第5曲「スケルツォ」(Scherzo)

- スケルツォは、急速なテンポと軽快なリズムが特徴です。この曲では、ユーモラスで遊び心のある雰囲気が表現されており、演奏者にとっても非常に技巧的な部分が多く含まれています。軽やかでエネルギッシュな性格を持つ楽章です。

6. **第 6 曲「鐘の音」(Bell Ringing)**
    - 最後の曲「鐘の音」は、繊細で神秘的な響きを持つ作品です。鐘の音が響き渡る様子がピアノで巧みに表現されており、深い瞑想的な雰囲気が感じられます。徐々に音が膨らんでいき、感情が高まる様子が描かれています。

作品の特徴

Op.54 は、グリーグがノルウェーの民俗音楽や自然、伝説に根ざした独特の音楽語法を発展させた時期に書かれており、彼の作風が凝縮された作品です。特に リズムの多様性、和声の斬新さ、詩的な感情が各曲に散りばめられており、 ピアノ曲としての表現力を豊かに活かしています。

演奏と評価

グリーグの抒情小曲集は、ピアノ奏者にとって親しみやすく、かつ演奏効果の高い作品集として広く演奏され続けています。Op.54 は、特にその詩的な内容と民族的な色彩が強調され、ノルウェーの作曲家としてのグリーグのアイデンティティが感じられるため、多くのリスナーに愛される作品となっています。

抒情小曲集 第 6 巻 Op.57 (1893 年)

1. **第 1 曲「幽想曲」(Svundne Dage / Vanished Days)**
    - この曲は、過ぎ去った日々を回想するような切なく、穏やかなメロディーが特徴です。哀愁を帯びた旋律は、内省的で深い感情を湛えています。

タイトル通り、ノスタルジックな雰囲気が漂い、グリーグ特有の詩的な感覚が感じられます。

2. **第 2 曲「ガヴォット」(Gavotte)**
    - 伝統的なバロック舞曲であるガヴォットのリズムと形式を基にしています。軽快なリズムとエレガントなメロディーが特徴で、グリーグの抒情的な美しさと、舞曲の形式美が見事に融合しています。この曲は、優雅さと遊び心を持ちながらも、洗練された雰囲気を持っています。
3. **第 3 曲「放浪者の歌」(Tungsind / Wanderer's Song)**
    - この曲は、旅する放浪者の孤独感や憂鬱な心情を描いています。メランコリックな旋律が繰り返され、曲全体に哀愁が漂っています。短調のハーモニーと流れるようなメロディーが、孤独な旅の風景を印象的に描き出しています。
4. **第 4 曲「挽歌」(Salong)**
    - この曲は、葬送曲や哀悼の意を込めた作品であり、深い感情が表現されています。抒情的でありながら、内省的で厳粛な雰囲気が漂っており、グリーグの詩的な側面がよく表れた作品です。曲全体に静謐な美しさが感じられます。
5. **第 5 曲「フランス風セレナード」(Fransk Serenade / French Serenade)**
    - この曲は、フランス風の軽やかなセレナードで、軽快でリズミカルな要素が特徴です。明るく親しみやすい旋律が流れ、舞曲風のスタイルが全体にわたって表現されています。グリーグが異国の音楽から影響を受けたことが感じられる作品です。
6. **第 6 曲「終わりなき行進」(Bekken / Brooklet)**
    - この曲は、小川が流れる風景を描いたもので、流麗で軽やかな音の流れが特徴です。水の流れをイメージさせる連続したアルペジオや細やかなパッセージが、自然の美しさを音楽で表現しています。曲全体が生き生きとした躍動感に満ちており、終始軽やかに流れます。

作品の特徴

Op.57 は、グリーグの他の抒情小曲集と同様に、短いピアノ曲を通じて彼の詩的な感性や自然への愛、そしてノルウェーの民族音楽の要素が表現されています。各曲は短くも独立した性格を持ち、感情の変化や風景描写が巧みに表現されています。

演奏と評価

グリーグの《抒情小曲集》Op.57 は、彼のピアノ曲の中でも抒情的で詩的な側面が強調されており、演奏者にとっては感情を豊かに表現することが求められます。この作品集は、聴衆に北欧の自然や心情を伝えるための重要なレパートリーとして、現在でも広く演奏されています。

抒情小曲集 第 7 巻 Op.62 (1895 年)

1. **第 1 曲「ちびっこ小人」**(Sylfide / Sylph)
    - 軽やかで幻想的な雰囲気を持った曲です。グリーグは、風の精霊や空気の精霊である「シルフ」という存在をテーマにしており、曲の中に浮遊感や軽やかさが表現されています。音の流れが柔らかく、繊細なタッチが求められます。
2. **第 2 曲「ノルウェー民謡」**(Norsk / Norwegian Melody)
    - グリーグが愛したノルウェーの民謡の要素が色濃く反映されています。この曲はシンプルな旋律に基づいており、ノルウェーの素朴な風景や伝統を思わせる内容となっています。穏やかで力強いリズムが印象的です。
3. **第 3 曲「挨拶」**(Hilsen / Greeting)
    - 軽快で親しみやすい曲で、グリーグ特有の抒情的なメロディが特徴です。タイトルの通り、明るく快活な「挨拶」の感情が曲全体を通じて伝わります。シンプルな構成ながら、温かみのある表現が求められます。
4. **第 4 曲「小鳥」**(Bekken / Brooklet)
    - この曲は軽やかで生き生きとしたリズムが特徴で、まるで小鳥が歌っているかのような印象を与えます。音の流れが速く、軽やかで透明感のあるメ

ロディーが曲全体を通じて響きます。グリーグは自然や動物を題材にした作品を多く作曲しており、この曲もその一例です。

5. **第 5 曲「家庭の神聖」**(Møte / The Homecoming)
    - 家庭の温かさや親しみやすさを表現した曲です。メロディは穏やかで感情的であり、家庭の絆や温もりが感じられます。グリーグは家庭を重要視しており、この曲にもその感情が反映されています。
6. **第 6 曲「カノン」**(Kanon / Canon)
    - 古典的なカノン形式で作曲されており、対位法的な技術が用いられています。厳密な形式に従いながらも、抒情的なグリーグの感性が活かされ、独特の美しさを持っています。技術的な要求が高く、演奏者にとってはチャレンジングな作品です。
7. **第 7 曲「鬼ごっこ」**(Seks småd / Scherzo)
    - タイトルの通り、遊び心のある楽しい曲です。速いテンポとリズミカルな展開が特徴で、まるで子供たちが鬼ごっこをしているかのような軽快な雰囲気が漂っています。技術的な要求も高く、演奏には精巧さと軽やかさが必要です。

作品全体の特徴

《抒情小曲集》Op.62 は、グリーグがピアノ音楽において達成した高度な抒情性と技術的な洗練が表現されています。この作品集は、ノルウェーの自然や民謡からインスピレーションを得た要素が強く、詩的な感情とともに、各曲が独自のキャラクターを持っています。

抒情小曲集 第 8 巻 Op.65 (1896 年)

エドヴァルド・グリーグの《抒情小曲集》Op.65 は、彼の円熟期に作曲されたピアノ曲集で、彼の北欧的な感性や独特の抒情性が反映された作品群です。全 6 曲からなり、

それぞれが異なるキャラクターと表現を持ちながら、全体として統一感のある構成となっています。

《抒情小曲集》Op.65 の各曲解説

1. **第 1 曲「鐘の音」**(Klokkeklang / Bell Ringing)
    - この曲は、まるで遠くから聞こえてくる教会の鐘の音を思わせるような、静かで穏やかな雰囲気を持っています。音楽は繰り返しのモチーフを中心に展開され、鐘の響きのように、優雅で透明感のある響きを作り出します。ピアノのペダルを使って音の余韻を大切にしながら、幻想的な世界を描き出します。
2. **第 2 曲「孤独なさすらい」**(Bryllupsdag på Troldhaugen / Wedding Day at Troldhaugen)
    - この曲は、グリーグの自宅「トロルハウゲン」での結婚記念日を祝うために作曲された曲です。明るく華やかなテーマが繰り返され、グリーグの個人的な喜びや感謝の気持ちが反映されています。音楽的には躍動感があり、リズムの力強さと豊かなメロディが印象的です。
3. **第 3 曲「子守歌」**(Bådnlåt / Cradle Song)
    - 優しく穏やかな子守歌のような曲で、母親が子供を寝かしつける場面を思い起こさせます。シンプルなメロディと柔らかなハーモニーが特徴で、全体的に落ち着いた雰囲気が漂っています。感情的には静かで安らぎに満ちており、グリーグの抒情性がよく表れています。
4. **第 4 曲「フィンランド民謡」**(Tyttebær-Li / Finnlandish Melody)
    - この曲はフィンランドの民謡の要素を取り入れており、グリーグの北欧的な感性が色濃く表れています。リズムと旋律のシンプルさが際立ち、素朴で民族的な響きを持っています。フィンランドの自然や人々の生活を描き出しているかのような、温かみのある楽曲です。
5. **第 5 曲「秘密」**(Hemlighet / Secret)
    - タイトル通り、この曲は内に秘めた感情や心の奥底に隠された思いを表現しています。メロディは静かで控えめですが、どこか謎めいた雰囲気を醸し出しています。曲全体を通して、繊細な感情の移ろいが描かれ、聴き手に深い印象を与えます。

6. **第 6 曲「郷愁」**(Hjemve / Homesickness)
    - グリーグの作品には「故郷」をテーマにした曲が多く、この曲もその一つです。タイトルが示す通り、故郷や過去を懐かしむ感情が表現されています。メロディは哀愁を帯び、郷愁の感覚が美しく描かれています。静かながらも感動的で、深い感情を呼び起こす作品です。

作品全体の特徴

《抒情小曲集》Op.65 は、グリーグの成熟した作曲技法が感じられる作品集であり、北欧の自然や民謡、そして彼自身の人生経験が反映されています。各曲は個性的でありながらも、全体としては統一感があり、グリーグ特有の抒情性と温かみのある作風が際立っています。

抒情小曲集 第 9 巻 Op.68 (1899 年)

エドヴァルド・グリーグの《抒情小曲集》Op.68 は、彼の晩年に作曲されたピアノ曲集で、成熟した抒情性と深みのある表現が特徴的です。この作品も全 6 曲からなり、各曲は北欧の自然や人々の感情を表現しています。

《抒情小曲集》Op.68 の各曲解説

1. **第 1 曲「夕べの歌」**(Aften på Høyfjellet / Evening in the Mountains)
    - 北欧の山々に沈む夕日の光景を思わせる、静かで荘厳な雰囲気の曲です。穏やかな旋律とゆったりとしたテンポが、自然の中での静かなひとときを表現しています。山々に響く風の音や夕暮れの静寂を感じさせる、幻想的な作品です。
2. **第 2 曲「小人の行進」**(Alfedans / At the Cradle)
    - この曲は、グリーグ特有の民謡的要素が色濃く反映されています。リズミカルで軽快な旋律が特徴で、小人たちが行進する姿を生き生きと描い

ています。音楽的にはユーモラスでありながらも、北欧の民話的な神秘的な世界観を感じさせる曲です。

3. **第 3 曲「郷愁」**(Hjemad / Homesickness)
    - タイトル通り、故郷を懐かしむ感情が静かに表現された曲です。落ち着いたメロディとハーモニーが、故郷への思いをじっくりと描いており、グリーグの抒情性が際立っています。曲全体にわたって哀愁が漂い、深い感情を呼び起こす作品です。
4. **第 4 曲「呪われた場所」**(Det forbudte land / The Haunted Place)
    - 不穏な雰囲気を持つ曲で、神秘的で暗い響きが特徴です。タイトルにある「呪われた場所」を暗示するかのように、緊張感のある和音進行と低音の重厚な響きが、不安感や恐怖を表現しています。グリーグの北欧の神話や伝説への関心が反映された作品です。
5. **第 5 曲「嘆き」**(Forbi / Gone)
    - 哀愁を帯びたメロディと、切ない響きが特徴の曲です。過去の喪失や別れを表現しているような、深い感情が込められています。シンプルながらも感情の奥深さを感じさせる作品で、グリーグの晩年の心境が反映されているとも言われます。
6. **第 6 曲「幻影」**(Kveld / Phantom)
    - 幻想的で神秘的な雰囲気を持つ曲です。軽やかなタッチと浮遊感のあるメロディが特徴で、夢の中の光景や幻影を思い起こさせます。グリーグ特有の詩的な感性が全体を包み込み、聴き手を幻想の世界へ誘います。

作品全体の特徴

《抒情小曲集》Op.68 は、グリーグの作曲家としての円熟期を反映した作品であり、深い抒情性と感情の表現が豊かに描かれています。特に、自然や故郷に対する思い、そして神話的な要素が強く感じられ、彼の晩年に至るまで続く北欧への強い愛情が反映されています。

抒情小曲集 第 10 巻 Op.71 (1901 年)

エドヴァルド・グリーグの《抒情小曲集》Op.71 は、彼のピアノ音楽の中でも特に親しみやすく、北欧の自然や感情を豊かに表現した作品集です。全 6 曲から構成されており、それぞれが独立した魅力を持ちながらも、全体として統一感を保っています。

1. 第 1 曲「昔ながらの村祭り」(Gamlebyen / Old Town)
    - この曲は、ノスタルジックな雰囲気を漂わせるもので、過去の村祭りの情景を描いています。リズミカルで軽快なメロディが、祭りの賑やかさと楽しさを表現しており、グリーグの民謡的な要素が感じられます。
2. 第 2 曲「夢」(Drøm / Dream)
    - 穏やかで夢幻的な雰囲気を持つこの曲は、夢の中の幻想的な光景や感情を描いています。メロディの流れが柔らかく、繊細なハーモニーが夜の静けさを思わせる作品です。静かな感情が内面的に表現されています。
3. 第 3 曲「ノルウェーの小川」(Høst / Autumn)
    - ノルウェーの秋の風景を思わせるこの曲は、落ち着いた雰囲気と穏やかなメロディが特徴です。自然の移ろいを感じさせる音楽で、静かな秋の夕暮れ時を彷彿とさせます。グリーグの自然への愛が反映された作品です。
4. 第 4 曲「軽やかに」(Let the Light Shine / Lyst)
    - 明るく軽快なこの曲は、希望や喜びを表現しています。明るいメロディとリズムが特徴で、元気で前向きなエネルギーを感じさせます。グリーグの楽観的な一面が表れた作品です。
5. 第 5 曲「穏やかに」(Litt / Little)
    - シンプルで穏やかなメロディが特徴のこの曲は、小さな幸福や静かな安らぎを表現しています。柔らかいタッチとシンプルな構成が、穏やかさを引き立てており、聴く人に優しい気持ちを伝えます。
6. 第 6 曲「さようなら」(Farvel / Farewell)
    - 別れや終わりをテーマにしたこの曲は、感情的に深く、少し切ない雰囲気があります。メロディの流れがしっとりとしており、感傷的な気持ちを表現しています。最後の曲として、全体に締めくくりの感情を与えています。

作品全体の特徴

《抒情小曲集》Op.71 は、グリーグの熟練した作曲技法と豊かな感受性が反映された作品集です。北欧の自然や感情を描き出し、聴く人にさまざまな情景や感情を喚起します。各曲が個別のキャラクターを持ちながらも、全体として統一感があり、グリーグの音楽の特徴をよく表しています

抒情小曲集の魅力と影響

《抒情小曲集》は、グリーグの感受性豊かな音楽スタイルを端的に表す作品群です。ノルウェーの風景や自然、民俗音楽に触発された短いピアノ作品は、感情表現が豊かで、多彩な音色や情景を描写しています。各曲が短くても、それぞれに独特の魅力があり、演奏者にとっても技術的には難しくないながらも、表現力が求められる作品が多いです。

グリーグは、自らが自然の中で受け取った感動や、ノルウェーの文化に対する愛情をこれらの作品に込めています。この小曲集は、ピアニストのみならず、広く一般の音楽愛好者にも愛され続けています。

まとめ

エドヴァルド・グリーグの《抒情小曲集》は、詩的でありながらも非常に親しみやすい作品集です。短くても深い感情を表現し、ノルウェーの自然や風景、文化を音楽に昇華させた彼の音楽的世界を味わうことができるでしょう。